CLUBMAN RACE

2023 SUZUKA CLUB MAN RACE Final Round

2023 鈴鹿クラブマンレース Final Round 開催報告書

■開催概要

●シリーズ　：　2023 鈴鹿クラブマンレース Final Round
●主催　：　オムニバスカークラブオブカンサイ（OCCK）、鈴鹿モータースポーツクラブ（SMSC）
[BMW & MINI Racing 2023] 運営：ジオミックモータースポーツ株式会社
●協力　：　AASC、ARC、ARCN、KRHC、チーム淀
●競技　：　JAF公認・準国内格式　公認番号2023-3002
●会場　：　鈴鹿サーキット フルコース（5.807km）
●開催レース　：　総参加台数.....103台
スーパーFJ.....23台
CS2.....13台
VITA.....31台
フォーミュラEnjoy.....23台
FIT 1.5 Challenge Cup.....13台
併催クラス：BMW & MINI Racing 2023 Round 6（Race 11／Race 12）……21台
●開催日　：　2023年12月2日（土）・3日（日）
●天候・路面　：　12月2日（土）・3日　晴／ドライ

★レースリザルトはインターネットでご覧いただけます。
https://www.suzukacircuit.jp/result_s/2023/clubman/

※2023年鈴鹿クラブマンレースは、この大会でシリーズ日程を終了いたしました。
　2024年の開催につきましては、別途あらためてご案内いたしますので、引き続きよろしくお願いいたします。

今回の最終戦では2レース制によって行われた「スーパーFJ」
12月2日（土）全カテゴリーの予選の後、このカテゴリーのRace1が開催された

最終戦にふさわしい熱いバトルが展開され、全てのカテゴリーでチャンピオンが決定！

12月2日（土）・3日（日）の2日間に渡り、鈴鹿クラブマンレースの2023年シーズン最終戦が開催された。今回行われたのは「スーパーFJ」「CS2」「VITA」「フォーミュラEnjoy」「FIT 1.5 Challenge Cup」の5カテゴリー。また、BMW M2とNew MINIによるレースシリーズ「BMW & MINI Racing」も併催された。

特に注目を集めたのは、ランキングリーダーの大八木龍一郎にわずか3ポイントという僅差でランキング2位のTOMISANが続いた「VITA」。公式予選でトップタイムをマークした徳升広平以下、5番手の大八木までがコースレコードを更新する予選となった。また、決勝レースではそれぞれ単独走行となった徳升と藤原優汰の背後でディフェンディングチャンピオンの大八木らがバトルを展開。3位でチェッカーを受けた大八木がチャンピオンを獲得した。

今シーズンの鈴鹿クラブマンレースはいくつかの変更が加えられて2月26日（日）に開幕した。「スーパーFJ」は今シーズンより「JAF鈴鹿・岡山地方選手権シリーズ」として開催され、30周年を迎えたJAF地方選手権F4クラスも「Formula Beat」というカテゴリー名に改称して開幕戦で開催された。それらのレースが盛り上がったことに加え、2022年シーズンに続き、岡山国際サーキットでのレースと連携したシリーズ戦として開催された入門フォーミュラカテゴリーの「フォーミュラEnjoy」、昨シーズンから「v.Granz」と「WEST16C」の2クラス混走によって行われてきた「CS2」、「クラブマンスポーツ」からカテゴリー名が改称された「VITA」、Hondaフィットのワンメイクレースである「FIT 1.5 Challenge Cup」などが、各ラウンドで白熱したレースを展開してきた。

その他、様々なワンメイクレースの併催、「VITA」と「CS2」の混走による120分耐久レース「MEC120」が全国展開のシリーズ戦となり、ここ鈴鹿サーキットではRound 3として開催、『SUZUKA Race of Asia 2023』の開催もトピックだった。こうして年間全5戦が鈴鹿サーキット フルコースを舞台に開催されてきた鈴鹿クラブマンレースの2023年シーズンが無事終了した。

なお、「FFチャレンジクラス」と「サーキットトライアル」は今シーズンをもって終了。JAF地方選手権として「FIT 1.5 Challenge Cup」が開催されるのも今シーズンが最後となった。「FIT 1.5 Challenge Cup」は来シーズン以降は鈴鹿クラブマンシリーズとして開催されることが決定している。鈴鹿スペシャリストとしてのコース攻略がより重要となるこのカテゴリーのレースをはじめ、来シーズンもさらに盛り上がりそうな鈴鹿クラブマンレースに期待していただきたい。

BMW M2 CS Racing、MINI JCW CHALLENGE CAR、MINI CPS CHALLENGE CARの3車種混走による「BMW & MINI Racing」が併催された

■スーパーFJ Class／Race1

Race1は公式予選でのベストタイム順にグリッドに並んで行われた。ホールショットを奪った迫隆眞、渡会太一、3番グリッドスタートの八巻渉のオーダーでオープニングラップを終了。それにランキングリーダーの白崎稜、もう一人チャンピオンの可能性が残されている田中風輝と続く。2周目の1コーナーで白崎がコースアウト。その直前、オープニングラップの130Rでコースアウトしたマシンが複数台あったことにより、セーフティカーがコースへ。リスタート後、田中が八巻、渡会を立て続けにパスして2番手に浮上する。グラベルに捕まったマシンがあったことにより、セーフティカーが再びコースIN。ファイナルラップのシケインでの接戦により、田中がオーバーラン。迫がトップチェッカーを受けた。

迫が公式予選で2分13秒751をマークしてポールポジション、コンマ052という僅差の2分13秒803を記録した渡会がその横、2番グリッドからスタートすることに

迫（中）がポールtoウィンを飾り、2位は渡会（左）、堂園鷲が3位でチェッカーを受けた　田中はRace2にチャンピオンの可能性を残すこととなった

■CS2 Class

公式予選では下野璃央が2分11秒963のトップタイムをマーク。下野のそのタイムと岸本尚将が記録した2分12秒114がコースレコードを更新する。良いクラッチミートを披露してホールショットをゲットしたのは下野。その下野、岸本、3番グリッドからスタートしたポイントリーダー関正俊のオーダーでオープニングラップを帰ってくる。徐々に下野、岸本は単独トップと2番手に。岸本から5秒以上離れた位置で関も単独3番手を走行する。下野はその後も岸本以降をリードし続け、6周目にはその時点でのファステストラップとなる2分12秒379をマークしてそのままトップチェッカー。チャンピオンの可能性が残されていた関、OOKA、岸本の内、3位チェッカーを受けた関がチャンピオンを決めた。

下野が公式予選で唯一の2分11秒台をマークしてポールポジションを獲得。決勝レースではその下野がスタート直後から後続を引き離しにかかる

レース後「何度かスピンしかけた」コメントした下野（写真中）だったが圧倒的な強さを披露してポールtoウィン

■VITA Class

徳升広平が公式予選で2分22秒622をマークし、コースレコードを更新。それに増本千春、藤原優汰と続く。決勝レースではポールポジショスタートの徳升、藤原、増本のオーダーで1コーナーへ。オープニングラップから早くも後続を引き離しにかかった徳升の背後で藤原と増本がテールtoノーズのバトルを展開する。藤原は単独2番手に。大八木龍一郎が2番手で2周目を終了する。徳升は4周目に2分34秒504のファステストラップをマークし、単独トップの座を盤石なものに。後続を引き離し続ける2番手・藤原の後方では大八木を先頭とする3台が3番手を争う。結局、徳升が藤原以降に2秒981のアドバンテージを築いてトップチェッカー。3位となった大八木が2年連続チャンピオンに輝いた。

公式予選で徳升がマークしたのは従来のコースレコードを1秒2以上短縮する驚異的なタイム。レースでもその徳升が存在感ある走りを披露

徳升（写真中）がポールtoウィン。2位は藤原（左）。3位チェッカーを受けた大八木がチャンピオンを決めた

■フォーミュラEnjoy Class

公式予選の最後の最後で山崎一平が唯一の2分27秒台となる2分27秒795をマークしてポールポジションを獲得。それに松平如水、古里拓と続く。決勝レースでは山崎がホールショットをゲット。それに松平が続く。その2台はオープニングラップから早くも単独トップ、単独2番手に。山崎、松平、8番グリッドスタートの東幸夫のオーダーでオープニングラップを終了するが、古里が東をパス。古里は単独3番手の座を築く。しかし、4周目になると山崎、松平、古里、安田知弘、東が再びパックに。中でも古里と安田の2台が接戦を繰り広げる。ファイナルラップのメインストレートで山崎と松平がテールtoノーズの状態になるが、山崎がトップのままチェッカー。4位となった東がチャンピオンを決めた。

ランキング2位の山崎がポールポジションからスタート。その山崎がオープニングラップから松平以降を引き離しにかかる

山崎（写真中）がトップチェッカーを受け、出場したレースで全勝。2位は松平（左）。古里が3位でレースを終えた

■フォーミュラEnjoy Class

57歳以上のドライバーが対象となる「マイスターズ・カップ」のウィナーは総合9位のRyuu Mao（写真中）がチャンピオンに輝いた

■スーパーFJ Class／Race2

Race1の決勝結果をもとに、上位6位までについてはリバースグリッド、上位7位以降はRace1のチェッカー順にグリッドに並んで行われたRace2。Race1より2周多い12周によって争われたこのレースでは岡本大地がホールショットを奪うと、それに村田悠磨、田中風輝とグリッドのオーダー通りに続く。オープニングラップの西ストレートで田中、堂園鷲、渡会太一がスリーワイド状態に。堂園が田中の前に出てオープニングラップを終える。堂園はファステストラップをマークしながら岡本に迫り、7周目にこれをパスするとトップのままチェッカー。20番グリッドからスタートしたチャンピオン候補の白崎稜は5周目を5番手で終えた時点で、自力チャンピオン圏内に。2位入賞を果たした白崎が見事チャンピオンを獲得した。

Race1を6位で終えた岡本がポールポジションからスタート。2番グリッドには村田が着き、チャンピオンの可能性がある田中は3番グリッドからスタート

■FIT 1.5 Challenge Cup Class

西尾和早が公式予選開始早々からタイミングボードの頂点に立ち、ポールポジションを獲得。清水悠祐と中西茂希も西尾と同じく2分31秒台をマークする。決勝レースでは西尾、清水、4番グリッドスタートの杉原悠太のオーダーで1コーナーへ。西尾はオープニングラップから早くも後方を引き離しにかかる。その若干後方で清水と杉原がテールtoノーズのバトルを展開。さらに少し離れて中西、岸元優、山内拓磨らもテールtoノーズの状態で4番手を争う。4周目のシケイン立ち上がりで杉原がタイヤをダートに落とすが、順位は3番手のまま変わらない。次第に清水が単独2番手に。中西が杉原を逆転する。西尾はファイナルラップまで危なげない走りを披露してトップチェッカー、全戦優勝を決めた。

すでにチャンピオンを決めている西尾がポールポジションからスタート。西尾は良いクラッチミートを披露してホールショットを奪う

西尾（写真中）が独走状態を築いてそのままウィナーに。2位は清水（左）、中西が3位でレースを終えた

■BMW & MINI Racing Round 6（Race 11／Race 12）

BMW M2 CS Racingのワンメイクレースである「M2 CS Racing」とNew MINIのワンメイクによる「MINI CHALLENGE JAPAN」の共催レースシリーズが「BMW & MINI Racing」。今回のRound 6では12月2日（土）の午後に公式予選が行われ、決勝は翌3日（日）の午前と午後に1戦ずつ（Race 11とRace 12）が開催された。

上位6位まではRace 11のリバースグリッド、上位7位以降はチェッカー順にグリッドに並んで行われた「M2 CS Racing」のRace12では石井一輝（写真中）が優勝

「MINI CHALLENGE JAPAN 」JCWクラスRace 12のウィナーは木村建登（写真中）。天田亮（左）が2位、平田雅士が 3位でレースを終えた

■BMW & MINI Racing Round 6（Race 11／Race 12）

「MINI CHALLENGE JAPAN 」CPSクラスのRace 12で表彰台にのぼったのは1位／面野一（写真中）、2位／豆野天星（左）、3位／白戸次郎の3名だった

Voice of Pick up Driver

この日、キラリと光ったドライバーに一問一答

この日、キラリと光った
ドライバーに一問一答
「Voice of Pick up Driver&Team」。

＜Pick Up Team＞
CS2 Classでポールtoウィン
v.Granz

下野 璃央 選手

「F4は予選が課題でしたが、このレースの予選ではポールポジションを獲得できたのが良かった」と話す下野選手

Q：公式予選でトップタイムをマーク。コースレコードを更新しましたね。
「v.Granzで鈴鹿を走るのは金曜日が初めてでした。中古タイヤで走って2分12秒台が出たので、新品タイヤであれば11秒台に入れることができると思っていました。想像通りのタイムを出すことができました」

Q：決勝レースではスタートの蹴り出しが見事。その後もトップの座を明け渡すことなく、ポールtoウィンを飾りました。
「金曜日からなのでスタートもあまり練習できませんでしたが、その中で一番良いクラッチミートができました。オープニングラップから後続を引き離したかったのですが、フロントタイヤが厳しく、特にセクター1がうまく走れませんでした。後半になって合わせ込むことができるようになり、トップを守ってチェッカーを受けることができました」

Q：今年はFIA-F4も戦いました。どんなシーズンでしたか。
「F4は開幕戦が初めてのレースでしたが入賞できました。しかし、その後は思った成績を残すことができませんでした。来シーズンもF4を戦うつもりです。今回のようにスポット参戦のレースも含めて今年より良い成績を残したいです」